

新専門医制度 内科領域 内科専門医研修プログラム



藤田医科大学病院

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会Web サイトにてご参照ください。

藤田医科大学病院内科専門医研修プログラム

目次

1. 藤田医科大学内科専門医研修プログラムの概要
2. 内科専門医研修はどのように行われるのか
3. 専攻医の到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）
4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得
5. 学問的姿勢
6. 医師に必要な倫理性、社会性
7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方
8. 年次毎の研修計画
9. 専門研修の評価
10. 専門研修プログラム管理委員会
11. 専攻医の就業環境（労働管理）
12. 研修プログラムの改善方法
13. 修了判定
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと
15. 研修プログラムの施設群
16. 専攻医の受け入れ数
17. Subspecialty領域
18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
19. 専門研修指導医
20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等
21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）
22. 専攻医の採用と修了

別添資料：藤田医科大学内科専門医研修プログラム連携病院一覧

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 藤田医科大学病院は、「我ら弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん」の病院理念のもとで診療を行います。
- 2) 本プログラムでは、愛知県の私立大学である藤田医科大学病院を基幹施設とし、主に尾張東部、知多半島医療圏にある連携施設を含む内科専門研修を行うことにより、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の **Generality** を獲得する場合や内科領域 **Subspecialty** 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。
- 3) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間+連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 **Subspecialty** 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

使命【整備基準2】

- 1) 我々は、藤田医科大学病院が掲げる病院理念を遂行するために、以下の5つの基方針を常に意識して診療を行っています。
 - ① 患者さま中心の高度で安全・良質な医療を行います。
 - ② 患者さまの権利・誇り・プライバシーを尊重します。
 - ③ 患者さまの視点に立ち最適な療法環境を提供します。
 - ④ 社会のニーズに応える国際水準の医療を提供します。
 - ⑤ 人間性豊かで広い視野を持つ医療人を育成します。
- 2) 本プログラムを通じて内科専門医として、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 3) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め自らの診療能力を高めることで最善の医療を提供できる研修を行います。
- 4) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 5) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムにより、尾張東部医療圏、知多半島医療圏、名古屋医療圏の一部を守備範囲として、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間以上+連携施設半年間以上の計 3 年間です。
- 2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である藤田医科大学病院での研修を中心とした専攻医 2 年修了時点で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。
- 4) 連携施設が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、半年間から 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 5) 専攻医 3 年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは藤田医科大学病院を基幹施設として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準：13～16、30]

- 1) 研修段階の定義：内科専門医は2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3年間の研修で育成されます。
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門医研修カリキュラム」（別添）にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。
- 3) 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（専攻医登録評価システム）への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修1年

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修2年

- 疾患：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修3年

- 疾患：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群、計200症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める56疾患群、そして160症例以上（外来症例は1割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。
- 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが

図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

<内科研修プログラムの週間スケジュール：腎臓内科の例>

オレンジ部分は特に教育的な行事です。

	月	火	水	木	金	土
午前	チーム回診	症例検討会	血液浄化 センター回診	チーム回診	専門外来	チーム回診
	病棟	総回診		腎生検		
午後	病棟・学生・ 臨床研修医の 指導	腎生検検討会	腎生検	シャント手術、 PTA	病棟・学生・臨床 研修医の指導	/
		シャント手術、 PTA	病棟・学生・ 臨床研修医の 指導	病棟	Weekly summary discussion	
		病棟				

なお、専攻医登録評価システムの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

- ① 専攻医 2 年目以降から初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 ヶ月以上行います。
- ② 当直を経験します。

4) 臨床現場を離れた学習

年間を通じて病院内および大学内で、様々な内容のセミナーを開催しており、受講することができます。また、JMECC（内科救急講習会）は大学病院内で開催しています。

5) 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に 1 回、指導医との Weekly summary discussion を行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できるプログラムも用意されています（項目 8 P9～10 を参照）。

7) Subspecialty 研修

後述する”各科重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備していま

す。

大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目 8 (P9～P10) を参照してください。

3. 専門医の到達目標項目 2-3) を参照[整備基準：4、5、8～11]

- 1) 3年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。
 - 1) 70に分類された各カテゴリーのうち、最低56のカテゴリーから1例を経験すること。
 - 2) 日本内科学会専攻医登録評価システムへ症例(定められた200件のうち、最低160例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること。
 - 3) 登録された症例のうち、29症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと。
 - 4) 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2) 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の13領域から構成されています。藤田医科大学病院には13の内科系診療科(救急総合内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、血液内科・化学療法科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、臨床腫瘍科、認知症・高齢診療科、感染症科)があります。また、救急疾患は救命救急センター(NCU、CCU、救命ICU、GICU、ER、災害外傷センター)や各診療科によって管理されており、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに連携施設の藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センターに安城更生病院、トヨタ記念病院、豊田厚生病院、大同病院、公立陶生病院、中京病院、中部ろうさい病院、などを加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。これらの連携施設との研修はSubspecialty領域によって異なり、連携先と研修内容については専攻医と話し合いのうえ、プログラム総括責任者が決定します。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

1) 朝カンファレンス・チーム回診

朝、患者申し送りを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3) 症例検討会（毎週）：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

4) CPC：1か月に1回開催されているCPCで、死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

5) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナルリズムについても学びます。

血液内科と臨床病理部との合同カンファレンス

消化管内科と外科との合同カンファレンス

呼吸器内科と外科と臨床病理部との合同カンファレンス

呼吸器内科・呼吸器外科・臨床腫瘍科との合同カンファレンス

肺がんボード（呼吸器内科・外科、臨床腫瘍科、病理科、放射線科合同） など

6) Weekly summary discussion：週に1回、指導医と行き、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

7) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢[整備基準：6、30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います（evidence based medicine の精神）。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6. 医師に必要な、倫理性、社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。藤田医科大学病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目 8（P9～10）を参照してください。

地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設（藤田医科大学ばんたね病院、豊田地域医療センター、大同病院、公立陶生病院、中京病院、大雄会総合病院、常滑市民病院、南生協病院など）での研修期間を設けています。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での基本となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。なお、連携病院へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準：25、26、28、29]

藤田医科大学病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、習得した内科領域全般の診療能力を異なる環境で実践することは内科研修の到達度を確認する上でも重要であることから、病病連携や病診連携を依頼・受ける立場を経験することにより、地域医療を実施します。地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます（詳細は項目10と11を参照のこと）。

地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設（藤田医科大学ばんたね病院、豊田地域医療センター、大同病院、公立陶生病院、中京病院、大雄会総合病院、常滑市民病院、南生協病院など）での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて臨床研修センターと連絡ができる環境を整備します。

具体的な研修施設は、コース毎に異なるため、責任者と相談の上決定します。

8. 年次毎の研修計画[整備基準：16、25、31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の2つのコース、①内科基本コース、②各科重点コース、を準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定の場合は内科基本コースを選択し、仮部門として救急総合内科に所属します。

将来の Subspecialty が決定している専攻医は各科重点コースを選択します。いずれのこ

ースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5～6年で内科専門医、その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

① 内科基本コース

将来の Subspecialty が未定な場合に選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専門医研修期間の3年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として2ヵ月を1単位として、1年間に6科、3年間で全科をローテーションします。2年目以降において、地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。研修する連携施設の選定及び研修期間については専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

内科基本コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内科1		内科2		内科3		内科4		内科5		内科6	
	5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間											
	1年目にJMECC受講											
2年目	内科7		内科8		内科9		内科10		内科11		内科12	
3年目	連携施設または特別連携施設での研修											
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
ローテーション	○ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 ○下記から選択してください。 ・内科13科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科）より各々2か月間 ・緩和医療科または病理診断科のいずれかを2か月間											
その他	subspecialtyが未決定の専攻医は仮部門として救急総合内科に所属します。											

② 各科重点コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。原則として基幹施設での研修を1年以上、連携施設での研修を1年以上とします。連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況、および連携病院の事情などにより、連携施設での研修時期と研修内容については個々の専攻医毎に異なる場合があります。連携施設での研修では、大規模施設のみならず多様な病院規模の施設で研修を行うことができます。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

1) 救急総合内科

救急総合内科													
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年目	救急総合内科（総合内科・救命ICU）												
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて 1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間											
	1年目にJMECC受講												
2年目	連携施設または特別連携施設での研修												
3年目	救急総合内科（総合内科・救命ICU）／ 他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						救急総合内科（総合内科・救命ICU）						
							初診・再診外来1回/週 担当						
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講												
連携施設 特別連携施設	協立総合病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター、西伊豆健育会病院												
その他	・大学院進学希望者も本コースで対応します。												

2) 神経内科

神経内科													
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年目	神経内科												
		5月から特別連携施設 豊田地域医療センターにて 1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間											
	1年目にJMECC受講												
2年目	神経内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						連携施設または特別連携施設での研修 (Subspecialty重点期間は最大2か月)						
	希望者は基礎・臨床研究の実施（社会人大学院入学）												
3年目	神経内科												
	希望者は基礎・臨床研究の実施（社会人大学院在籍）												
	安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講												
連携施設 特別連携施設	総合大雄会病院、名古屋記念病院、鈴鹿病院、豊田地域医療センター												
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目は所属科にて基本的トレーニングを受けます。 ・2年目の前半は所属科での研修または他内科にてローテーション研修や不足症例の研修を行い、後半は連携施設または特別連携施設で研修を行います。 												
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション科は14科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科、病理診断科）より7科を選択しますが、他内科の一部は連携病院でも可とします。 ・ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ・ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 												

3) 循環器内科

循環器内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	循環器内科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	循環器内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						循環器内科					
		初診・再診外来1回/週 担当										
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋記念病院、大同病院、碧南市民病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、半田市立半田病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター〔地域医療（総合内科Ⅰ（一般）、総合内科Ⅱ（高齢者））も兼ねる〕											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。 そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

4) 呼吸器内科・アレルギー科

呼吸器内科内科・アレルギー科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	呼吸器内科・アレルギー科						呼吸器内科／他内科にて不足症例を研修					
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
	希望者は基礎・臨床研究の実施（社会人大学院入学）											
2年目	呼吸器内科／他内科にて不足症例を研修						連携施設での研修					
3年目	連携施設での研修						呼吸器内科・アレルギー科で総合研修					
		初診・再診外来1回/週 担当										
	安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋第二赤十字病院、トヨタ記念病院、中部ろうさい病院、掖済会病院、中京病院、公立陶生病院、安城更生病院、藤田医科大学ばんだね病院											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> 1年目の最初の6か月は所属科にて基本的トレーニングを受けます。 その後、臨床研修での症例集積もふまえて不足症例を考慮し、必要であれば他内科のローテーションが可能です。 他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ローテーション科は13科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科）より選択します。 連携施設先の選択および時期等の詳細については内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 											

5) 消化管内科

消化管内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	消化管内科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	消化管内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						消化管内科／他内科にて不足症例を研修					
	安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	日進おりど病院、総合大雄会病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目は所属科にて基本的トレーニングを受けます。 ・ローテーション科は14科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科、病理診断科）より3科を選択します。 ・ローテーション科は臨床研修で十分経験できなかった診療科を優先して選択してください。 ・連携施設での研修において外来診療ができない場合は、3年目の消化管内科で実施することとします。 ・他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ・連携施設研修中および他内科ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 ・ローテーション中は所属科の院内業務は免除とします。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。 そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

6) 肝胆膵内科

肝胆膵内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	肝胆膵内科											
		豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	肝胆膵内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						肝胆膵内科／他内科にて不足症例を研修					
	初診・再診外来1回/週 担当											
連携施設 特別連携施設	半田市立半田病院、大同病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。 そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

7) 血液内科・化学療法科

血液内科・化学療法科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	血液内科				血液内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修							
	5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて 1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間											
	1年目にJMECC受講											
2年目	血液内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修								血液内科			
3年目	連携施設または特別連携施設での研修（Subspecialtyとして重点研修する場合の期間は最大4か月）											
							初診・再診外来1回/週 担当					
	安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> 1年目の最初の4か月は所属科にて基本的トレーニングを受けます。その後他内科を原則2か月ずつローテーションします。また、2年目の最後の4か月は血液内科で専門的なトレーニングを行います。（他内科の研修が不要であれば適宜期間を延長します。） ローテーション科は14科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科、病理診断科）より最大8科を選択しますが、血液内科subspecialty重点コースでは臨床腫瘍科、緩和医療科のローテーションは原則必須とします。 他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 内科専門医取得のための経験症例の充足状況も考慮し、3年目に連携施設でそれらを補充することも可能です。 他内科ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 他内科ローテーション中も所属科の処置・検査、症例検討会およびスライドカンファランス等への参加はローテーション科での研修に支障がない限りは可能です。 本コースと並行して大学院への進学も可能です。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

8) リウマチ・膠原病内科

リウマチ・膠原病内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	リウマチ・膠原病内科											
	豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修											
	1年目にJMECC受講											
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	リウマチ・膠原病内科／ 他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						リウマチ・膠原病内科／他内科にて不足症例を研修					
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	安城更生病院、豊田厚生病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

9) 腎臓内科

腎臓内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	腎臓内科											
		豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	腎臓内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						腎臓内科					
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	岡崎市民病院、トヨタ記念病院、中京病院、公立陶生病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

10) 内分泌・代謝内科

内分泌・代謝内科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	内分泌・代謝内科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	内分泌・代謝内科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						内分泌・代謝内科					
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	豊田厚生病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目は所属科にて基本的トレーニングを受けます。 ・その後連携施設または特別連携施設での研修を経てから、所属科での研修または他内科にて不足症例の研修を行います。 ・他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ・連携施設研修中および他内科ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他内科ローテーション中は内分泌・代謝内科検査（甲状腺超音波検査・副腎静脈サンプリングなど）への参加、研修は任意です。 ・地域医療研修として2年目の後半以降に連携施設での内科全般における研修（内分泌・代謝内科専門研修を含む）を行います。 ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

11) 臨床腫瘍科

臨床腫瘍科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	臨床腫瘍科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
		1年目にJMECC受講										
2年目	連携施設または特別連携施設での研修／他内科にて不足症例を研修											
3年目	臨床腫瘍科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						臨床腫瘍科					
		初診・再診外来1回/週 担当										
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋第一赤十字病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目は所属科にて基本的トレーニングを受けます。2年目は連携施設または特別連携施設で研修を行います。 ・他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ・他内科ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 ・乳がんの化学療法を修得するために乳腺外科のローテーションも可能です。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他内科ローテーション中は所属科の研修は任意です。 ・地域医療研修として2年目の後半以降に連携施設での内科全般における研修（腫瘍内科研修を含む）を行います。 ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。 ・そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

臨床腫瘍科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	臨床腫瘍科					臨床腫瘍科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
		1年目にJMECC受講										
2年目	臨床腫瘍科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修						連携施設または特別連携施設での研修／他内科にて不足症例を研修					
3年目	連携施設または特別連携施設での研修						臨床腫瘍科					
		初診・再診外来1回/週 担当										
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋第一赤十字病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目の4か月は所属科にて基本的トレーニングを受けます。 ・他内科ローテーションの順序は内科専門研修委員会と専攻医とで協議します。 ・症例の充足状況を勘案し、2年目の後半に他内科をローテーションしたり、連携施設等で研修を行ったりすることが可能です。 ・他内科ローテーション中は当該科の指導医が研修指導を行います。 ・乳がんの化学療法を修得するために乳腺外科のローテーションも可能です。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他内科ローテーション中は所属科の研修は任意です。 ・地域医療研修として2年目の後半以降に連携施設での内科全般における研修（腫瘍内科研修を含む）を行います。 ・大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。 ・そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

12) 認知症・高齢診療科

認知症・高齢診療科 (Subspecialty 1年半)												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	認知症・高齢診療科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	認知症・高齢診療科/ 他内科ローテーション/他内科にて不足症例を研修						認知症・高齢診療科					
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋記念病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

認知症・高齢診療科 (Subspecialty 2年)												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	認知症・高齢診療科											
		5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間										
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	認知症・高齢診療科											
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	名古屋記念病院、藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院進学の場合も本コースで考慮します。大学院在籍は専門医制度と紐付いているわけではありません。そのため、大学院在籍時も通常の専門研修と同様のプログラム内容が研修できる限りにおいては、その症例と経験実績が研修期間として認められます。 											

13) 感染症科

感染症科												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	感染症科			感染症科／他内科ローテーション／他内科にて不足症例を研修								
	5月から豊田地域医療センター（連携施設）にて1回/月のプライマリケア当直研修 6か月間											
	1年目にJMECC受講											
2年目	連携施設または特別連携施設での研修											
3年目	感染症科／他内科にて不足症例を研修											
							初診・再診外来1回/週 担当					
	臨床倫理セミナー1回/年、安全管理研修会および感染対策研修会2回/年の受講、CPCの受講											
連携施設 特別連携施設	藤田医科大学ばんだね病院、豊田地域医療センター											
基本事項	<ul style="list-style-type: none"> ローテーション科は14科（循環器内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化管内科、肝胆膵内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科・化学療法科、救急総合内科、臨床腫瘍科、緩和医療科、認知症・高齢診療科、感染症科、病理診断科）より選択します。 連携施設または特別連携施設での研修科は、研修先それぞれの該当科の所属長、内科専門研修委員会で協議します。 											
その他	<ul style="list-style-type: none"> 大学院進学の場合も本コースで考慮します。 											

9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医がWeb版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

臨床研修センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的評価

専攻医研修3年目の3月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師、病棟薬剤師、理学療法士など）から、接点の多い職員5名程度を指名し、毎年3月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

④ ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会と総括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修

終了時に1名選出し、表彰状を授与します。

⑤ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39]

1) 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を藤田医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から1名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹施設および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2) 専攻医外来担当システム

外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するためにプログラム管理委員会が、外来症例割当システムを構築します。未経験疾患患者の外来予定が研修センターから連絡がきたら、スケジュール調整の上、外来にて診療します。専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めます。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、藤田医科大学の「※就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

※ 本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、基幹施設である藤田医科大学病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースが標準系ということではありません。個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準：49～51]

研修プログラム管理委員会を藤田医科大学病院にて年1回以上開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は

毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）に対しては研修プログラム管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

13. 修了判定 [整備基準：21、53]

専攻医登録評価システムに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の最大 16 まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。
- 2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
- 3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC 受講
- 5) プログラムで定める講習会受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと [整備基準：21、22]

専攻医は所定の様式を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準：23～27]

藤田医科大学病院が基幹施設となり、安城更生病院、トヨタ記念病院、大同病院、公立陶生病院、藤田医科大学ばんだね病院、中京病院、名古屋第一赤十字病院、中部ろうさい病院、岡崎市民病院、南生協病院、名古屋掖済会病院、名古屋記念病院、協立総合病院、総合大雄会病院、碧南市民病院、常滑市民病院、日進おりど病院、半田市立半田病院、名古屋第二赤十字病院、西知多総合病院、総合犬山中央病院、豊田地域医療センター、みよし市民病院、豊田厚生病院、西伊豆健育病院、四日市羽津医療センター、国立病院機構鈴鹿病院、藤田医科大学七栗記念病院、藤田医科大学岡崎医療センター（2020 年度開院予定）などを加えた多様な病院規模の研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。（参照；別添資料：藤田医科大学内科専門医研修プログラム連携病院 概要 一覧）

16. 専攻医の受入数

藤田医科大学病院における専攻医の上限（学年分）は 18 名です。

- 1) 藤田医科大学病院に卒後 3 年目で内科系講座に入局した後期研修医は過去 3 年間併せて 30 名で 1 学年 7～13 名の実績があります。

- 2) 藤田医科大学病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を一医局あたり数名の範囲で調整することは可能です。
- 3) 剖検体数は 2015 年度 23 体、2016 年度 18 体 2017 年度 22 体です。
- 4) 経験すべき症例数の充足について

藤田医科大学病院診療科別診療実績

2017 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
救急総合内科	1,019	26,324
臨床腫瘍科	7	2,912
消化管内科	1,243	24,273
肝胆膵内科	750	17,104
循環器内科	2,211	29,795
内分泌・代謝内科	667	30,436
腎内科	684	21,616
呼吸器内科・アレルギー科	1,973	32,930
血液内科	700	12,844
神経内科	599	18,612
リウマチ膠原病内科	252	17,078
認知症・高齢診療科	0	1,195
感染症科	-	-

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群全て充足可能でした。

- 5) 専攻医 2 年目以降に研修する連携施設・特別連携施設には 113 施設があり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、各科重点コースを選択することになります。基本コースを選択していても、条件を満たせば各科重点コースに移行することも可能です。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します。

18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件[整備基準：33]

- 1) 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 カ月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と

移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医[整備基準：36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「first author」もしくは「corresponding author」であること）。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【選択とされる要件（下記の1、2いずれかを満たすこと）】

1. CPC、CC、学術集会（医師会含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JMECCのインストラクターなど）

※ 但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 Subspecialty 専門医資格を1回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間（2025年まで）においてのみ指導医と認めます。

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準：41～48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床検査専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行います。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了[整備基準：52、53]

1) 研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の4月1日までに以下の専攻医氏名報告書を、藤田医科大学内科専門研修プログラム管理委員会および、日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。

- 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研

修開始年

- 専攻医の履歴書
- 専攻医の初期研修修了証

2) 研修の修了

全研修プログラム修了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

藤田医科大学内科専門研修プログラム連携病院一覧

安城更生病院

トヨタ記念病院

豊田厚生病院

大同病院

公立陶生病院

藤田医科大学ばんたね病院

中京病院

名古屋第一赤十字病院

中部ろうさい病院

岡崎市民病院

南生協病院

名古屋掖済会病院

名古屋記念病院

協立総合病院

総合大雄会病院

碧南市民病院

常滑市民病院

日進おりど病院

半田市立半田病院

名古屋第二赤十字病院

西知多総合病院

総合犬山中央病院

豊田地域医療センター

みよし市民病院

藤田医科大学岡崎医療センター（2020年度開院予定）

安城更生病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメントに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が23名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P Cを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績6回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績12回）
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績5演題）</p>
<p>指導責任者</p>	<p>度会正人 【内科専攻医へのメッセージ】 安城更生病院は、愛知県西三河南部西医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診連携・病病連携の中核です。内科入院患者数約7,000名/年間、新外来患者数約20,000名/年間、救急車来院患者数約8,000台/年間と、専攻医にとって多くの症例が経験できるのが魅力です。包括的な全人的な医療を実践できる人間性豊かな内科医を育成する場であるとともに、実践的な研修が行える病院です。指導医が充実しており、かつ教育体制も整っております。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 23名、日本内科学会総合内科専門医 14名 日本消化器病学会消化器専門医 7名、日本循環器学会循環器専門医 6名 日本内分泌学会専門医 1名、日本糖尿病学会専門医 3名 日本腎臓病学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名 日本血液学会血液専門医 5名、日本神経学会神経内科専門医 4名 日本アレルギー学会専門医(内科) 1名、日本リウマチ学会専門医 2名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 1,924名(1日平均)、入院患者 715名(1日平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診察連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会専門医制度研修施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設</p>

	<p>日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設 日本消化器病学会専門医制度基幹研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医制度認定研修教育病院 日本循環器学会認定専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会専門医制度基幹研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会専門医制度研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療医認定機構認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本胆道学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 など</p>
--	--

トヨタ記念病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（ハートフルネット）があります。 ・ハラスメント委員会がトヨタ自動車株式会社車内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 22 名在籍しています。（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（石木内科科部長）、副統括責任者（杉野呼吸器科科部長）、プログラム管理者（山下腎臓膠原病内科科部長）とともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する卒後研修管理委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（循環器、消化器、呼吸器症例検討会：2015 年度実績 10 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2017 年秋開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に卒後研修管理委員会が対応します。

認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 17 体，2014 年度 12 体）を行っています。
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	<p>石木良治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科の全科に専門医が勤務しており、指導体制も整っているため、充実した内科研修をおくることができる。</p> <p>また、総合内科もあり臓器にとらわれない疾患検索、全身管理や治療を学ぶことが出来る。</p> <p>感染症科も独立しており専従の専門医がいるため、感染症診療の質が高い。感染症科ローテーション中だけでなく、各科研修中も感染症診療に関して質の高い研修を受けることが出来る。</p> <p>当院は年間 35,000 人の ER 受診患者、7,000 台の救急車搬入があり、うち半数が内科疾患による受診である。救急科の指導体制も整っており、救急疾患に関しても充実した研修を受けることが可能である。</p> <p>内科全体として症例検討会などのカンファレンスを行っており、各科の交流が多く、複教科にオーバーラップした疾患を受け持った際も複数の専門科指導医から指導を受ける事ができる。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 4 名、</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 2 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 1 名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 5 名、</p> <p>日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、</p> <p>日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 2 名、</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 5 名 ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 25,633 名（1ヶ月平均）</p> <p>入院患者 13,555 名（1ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本アレルギー准認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p>

	日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
--	--

豊田厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ● 豊田厚生病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ● ハラスメント委員会が整備されています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所・病児保育があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医は 27 名在籍しています（下記）。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者、各診療部長は、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門医研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2014 年度実績 各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的で開催（2015 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、救急合同カンファレンス、豊田加茂医師会との講演会・症例検討会；を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2014 年度 2015 年度各 1 回：受講者 9 名 2016 年度も開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。 ● 特別連携施設（足助病院）での研修中においても指導の質および評価の正確さを担保するため、基幹施設である豊田厚生病院の研修センターおよび指導医と専攻医が電話またはメールで常に連絡可能な環境を整備します。また、月 2 回の豊田厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医が直接的な指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。

3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 • 専門研修に必要な剖検（2015 年度 21 体、2014 年度実績 20 体、2013 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> • 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 • 倫理委員会を設置し、講演会も定期的開催（2014 年度実績 12 回）しています。 • 治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2014 年度実績 12 回）しています。 • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3 演題）をしています。 • その他各専門学会などに 2014 年度発表は、56 演題（循環器 25、神経内科 11 他）著書・論文は 9 でした。
指導責任者	<p>篠田政典</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>豊田厚生病院は、愛知県西三河北部医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>過去 20 年にわたり、内科を幅広く、比較的長期にわたるローテート研修を施行し、裾野の広い内科医として多くの専攻医を育ててきました。指導医の専門分野を将来選択しない専攻医に対して熱心に教育する姿勢はすでに確立しており、各専門科の垣根なくアットホームな感覚で研修ができます。症例も豊富であり、各科指導医も充実しています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 (+1) 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 8 (+1) 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 (+2) 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 (+1) 名</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 (内科) 3 名</p> <p>日本リウマチ学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 2 名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 2 (+1) 名</p> <p>日本集中治療医学会集中治療専門医 1 名</p> <p>(まだ内科指導医ではないが専門医取得の医師数)</p>
外来・入院患者数	外来患者 491 名 (1 日平均) 入院患者 272 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設</p> <p>日本神経学会教育関連施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会 (認定研修施設)</p> <p>I C D /両室ペースメーカー植え込み認定施設</p> <p>日本不整脈心電図学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p>

	日本消化器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本東洋医学会など
--	--

大同病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が15名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績5回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績21回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績2演題）
指導責任者	荒川友晴 循環器内科部長 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は名古屋市南部医療圏の中心的な急性期病院です。中規模病院であるが故に、内科系の各領域間に垣根はなく、横断的な研修が可能です。また内科13領域のうち、11領域で専門医が存在し幅広い研修が可能です。著名な外部講師を招いた臨床推論を身につける症例検討会、ベットのサイドテーピングなど内科総合力を身につけることを重視しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12名、日本内科学会総合内科専門医 8名 日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本循環器学会循環器専門医 4名 日本内分泌学会専門医 2名、日本糖尿病学会専門医 2名 日本腎臓病学会専門医 2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5名 日本血液学会血液専門医 1名、日本神経学会神経内科専門医 3名 日本アレルギー学会専門医（内科） 0名、日本リウマチ学会専門医 2名

	日本感染症学会専門医 1名、日本救急医学会救急科専門医 0名
外来・入院患者数	内科系外来患者2479名/月、内科系入院患者延べ5161名/月
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 など

公立陶生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ● 公立陶生病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署があります。また、メンタルヘルスに関する相談窓口を設けています。 ● ハラスメント委員会が整備されています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医が 24 名在籍しています。（下記） ● 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的開催(2015 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 4 演題）をしています

4)学術活動の環境	
認定基準 【整備基準 24】 指導責任者	近藤康博 【内科専攻医へのメッセージ】 公立陶生病院は、最重症の内科救急を最先端医療で対応しドクターヘリ患者搬送の受け入れも行う3次救急病院であるとともに、慢性・難治性疾患にも対応し、がん診療拠点病院でもあります。内科における13領域すべての専門医と緩和ケア専従医が在籍し、豊富な症例数から、全領域において必要十分な内科専門医としての修練が可能です。代々培われた屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に付けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。 連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 24 名,日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名,日本肝臓学会肝臓専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名,日本腎臓病学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名,日本血液学会血液専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名,日本内分泌学会専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 3 名,日本アレルギー学会専門医(内科)4 名, 日本リウマチ学会専門医 1 名,日本感染症学会専門医 1 名, 日本救急医学会救急科専門医 1 名,ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,460 名 (1ヶ月平均), 入院患者 17,430 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本腎臓病学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本血液学会認定血液研修施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本東洋医学会研修施設 など
--	--

藤田医科大学ばんだね病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●専門研修、後期研修もしくは指導医に対する労働環境が保障されています。 ●学校法人藤田学園内にメンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメントに対処する部署が整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ●近隣に保育施設が多数あります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が 14 名在籍しています。 ●内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●全職員を対象とした医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスに関しては定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的開催（2016 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 8 分野（総合内科、消化器、循環器、腎臓、内分泌、神経、呼吸器、アレルギー、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 3 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会（1 題）、同地方会（4 題）で学会発表をしています。
指導責任者	堀口高彦 【内科専攻医へのメッセージ】 藤田医科大学ばんだね病院は名古屋駅、金山駅までそれぞれ 1 区間という名古屋の都心にある大学病院です。診療科目は内科系以外にも各診療科がそろっており、内科に関しては、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、腎臓内科、内分泌内科など大学病院ならではの高度な医療が提供でき、希少な症例の経験も可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名
外来・入院患者数	総外来患者（実数）195,907 名（年間）、総入院患者（実数）9,888 名（年間）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設

中京病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●任期付常勤職員として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス室）があります。 ●セクハラ・パワハラ委員会が整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は 18 名在籍しています（下記）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2018 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と専門医研修推進室（2018 年度予定）を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 9 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●日本専門医機構による施設実地調査に専門医プログラム推進室が対応します。 ●特別連携施設（名南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の中京病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。研修に必要な 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。

認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、研究部、閲覧室などを整備しています。 倫理委員会や治験管理室が整備され、臨床研究体制が整っています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表 (2015 年度実績 5 演題) をしています。
指導責任者	<p>坪井 直哉</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は名古屋市南部地域および知多半島を中心とした地域の中核となる高度急性期病院で、臓器別に専門医と指導医資格を持った上級医による高い水準の内科専門医教育を受けることができます。もともと細やかな初期研修指導で定評がありましたが、2005 年より 2 年間の全科総合初期研修後、1 年間の内科総合研修を経てサブスペシャリティ診療内科医の研修へと進む体制を整え、積極的な内科総合後期研修にも努めてきた実績のある病院です。当院は全国に約 400 施設あるがん診療連携拠点病院の一つに指定されており、がん診療に重点を置いています。また、国の 4 疾患に指定されているがん以外の糖尿病・循環器病・脳卒中に加え、腎臓病・膠原病リウマチに関しても、関連複数診療科による横断的診療や多職種による包括的カンファレンスが効率的に行えるようセンター化したり、総合医育成を目的としたプライマリケア学会研修育成の場である総合診療科も新設したりするなど、内科全体の検討会などにも各内科専門的視点のみならず総合的な質の高い内科医療を研修・実践できる環境を整えています。加えて、1 次・2 次救急医療は勿論、3 次救急に特化した救急科があり、様々なレベルの救急医療における内科専門医としての医療が経験できます。また、高齢者医療と介護の需要の増大に対応するべく老人保健施設も併設しており、急性期治療が終了した患者の療養に対する医療支援も実践できます。禁煙外来や併設健診センターでの患者指導といった疾病予防医療も積極的に実践できます。疾病予防から一般内科・内科専門および高度救急医療・回復期医療といった時代のニーズにあった内科専門医を養成するプログラムを提供します。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名</p> <p>日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名</p> <p>日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名</p> <p>日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名</p> <p>日本アレルギー学会専門医 (内科) 1 名</p> <p>日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 5 名 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 26,209 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 16,239 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p>

	日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 スtentグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
--	--

名古屋第一赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度の基幹型臨床研修病院、協力型臨床研修病院、NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定病院です。 ・研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・後期臨床研修医（専攻医）、指導医には適切な労務環境が保証されています。 ・メンタルヘルス相談室の設置、精神科リエゾンチームの活動等メンタルストレスに対処できる体制が取られています。 ・ハラスメントに対処する部署が整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、シャワー室、当直室等に配慮されています。 ・敷地内に院内保育所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 27 名在籍しています。 ・専門研修管理委員会、内科プログラム管理委員会（名古屋第一赤十字病院内科専門研修プログラム）、内科研修委員会（基幹施設）、内科研修委員会（連携施設）を院内に設置し、関連施設との連携を図っています。 ・内科研修委員会は施設内で研修する専攻医の研修の進捗状況を管理し、基幹施設のプログラム管理委員会と連携を図っています。 ・各委員会の事務局は教育研修推進室におき、専攻医の全体的管理をおこないます。 ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する講習会・研修会を定期的に開催し、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 7 回、感染対策 7 回） ・基本領域専門医の認定および更新にかかる共通講習を定期的に開催し、専攻医および指導医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 指導医講習会 1 回、保健医療講習会 1 回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 15 回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 14 回） ・施設実地調査に対応可能です。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）のうち総合内科を除く 12 分野（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 27 件）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 9 演題）をしています。

指導責任者	<p>春田純一</p> <p>《内科専攻医へのメッセージ》</p> <p>当院ではごく希少な疾患を除き、内科学会で研修目標とする 67 分野、200 症例以外にも内科全領域の疾患を幅広く経験する事ができます。豊富な臨床経験を持つ指導医のもとで基礎的な疾患から、高度な知識や技術を必要とする疾患まで診断と治療技術を学ぶ事ができます。造血細胞移植センターを持つ血液内科では国内有数の数を誇る骨髄移植、循環器内科では心臓外科ともタイアップしたインターベンション治療、消化器内科では ESD を始めとする高度な内視鏡治療技術、拡大内視鏡を用いた精査な内視鏡診断を学ぶ事ができます。呼吸器内科では肺癌を始めとする化学療法、急性期の呼吸管理、気管支鏡による最先端の診断治療を学ぶことができます。腎臓内科では腎疾患のみでなく、数多くの膠原病症例も経験できます。この他の内科各分野でも最先端の診断、治療技術を経験できます。3 次救命救急センターを持ち、内科各分野を始めとする、高度な救急医療を経験する事ができます。災害救護にも豊富な経験を持っています。栄養サポートチーム、院内感染対策チーム、呼吸器・モニター管理チーム、緩和ケアチーム等、多職種からなるチーム医療にも積極的に参加することができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 27 名、 日本内科学会総合内科専門医 23 名、 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、 日本血液学会血液専門医 8 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 3 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名 日本透析医学会透析専門医 1 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 4 名、 日本静脈経腸栄養学会認定医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名、 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者数 31,909 名 (1 ヶ月平均) 入院患者数 23,114 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども体験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本血液学会認定血液研修施設、 日本内分泌代謝科学会認定教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設、 日本透析医学会教育関連認定施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本甲状腺学会認定専門医施設、 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設、</p>

	日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本がん治療認定機構認定研修施設、 日本不整脈学会専門医研修施設、 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
--	--

中部ろうさい病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・中部労災病院嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があります。 ・当機構において「ハラスメント防止規程」が定められており、相談員を4名配置し対応します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が13名在籍しています（下記）。（21名へ増員予定） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績、医療倫理2回、医療安全4回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績10回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績49回）
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）全てで定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。内分泌、血液、アレルギー、救急は領域を横断的に研修します。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績9演題）をしています。
指導責任者	丸井 伸行 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋市南部の急性期病院である中部ろうさい病院を基幹病院とするプログラムであり、主に名古屋市を中心とする連携施設群を中心に幅広い内科研修を可能とするプログラムを準備します。 平成12年に「若手医師セミナー」として開始した研修医・医学生向けの講演会・セミナーは、各科ローテーションだけでは補えない分野をはじめとして臨床医を目指す研修医のみなさんに学習の機会を提供してきました。「総合力を持った専門医の養成」を目標に感染症、膠原病、水・電解質、救急、循環器、皮膚科、放射線科、総合診療など多岐にわたる講演を現在でも開催しています。専門医をめざす専攻医の皆さんには専門を極めた先生方の講演ならびに症例検討会に参加することにより、将来皆さんが目指す臨床医像を共有いただけたらと思います。
指導医数 (常勤)	日本内科学会指導医13名、日本内科学会総合内科専門医11名 日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医8名 日本糖尿病学会専門医5名、日本腎臓病学会専門医3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本神経学会神経内科専門医5名 日本リウマチ学会専門医2名、日本感染症学会専門医1名

	日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数 10,705 名 (1 か月平均) 入院患者数 6,627 名 (1 か月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

岡崎市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理室) があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医が 15 名在籍しています。(下記)</p> <p>内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 3 回、感染対策 4 回)</p> <p>研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015 年度実績 8 回)</p> <p>地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015 年度実績 10 回)</p>
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療してい

	ます。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。(2015 年度実績 6 演題)
指導責任者	小林 靖 【内科専攻医へのメッセージ】 岡崎市民病院は岡崎市、幸田町からなる圏域人口約 42 万人を有する愛知県西三河南部東 2 次医療圏の 3 次救急医療機関である。医療圏の唯一の総合病院でもあり、common disease から rare disease まで幅広い疾患群の診療を行っている。したがって当院での内科専門研修の大きな特徴は非常に多くのバラエティに富んだ症例を経験できることにある。また、年間の救急搬送数は 9000 台以上と救急疾患の症例数も多く、非常に実践的な診療技術を身に付けることができる。様々な合同カンファレンスが連日開催されており、診療科の垣根を超えた総合的な医療にも容易に接することができる。さらに各診療部門のメディカルスタッフは非常に向上心が高く、かつ協力的であり、日ごろから高いレベルのチーム医療を実践しており、そのチームの一員としても活動できる。このように実践的な診療技術のみならず、幅広い医療知識を身に付けることが可能であることが当院の内科専門研修の魅力である。勤務環境としての魅力としては、正規雇用になるため公務員として安定した福利厚生や実労働時間の時間外手当支給、当直明けの半日休暇などが挙げられる。学術支援では取り寄せ文献複写の無料化や海外での発表を含む学会出張の十分な援助などがある。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医 (内科) 1 名、日本リウマチ学会専門医 0 名 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 25,037 名 (1 ヶ月平均)、入院患者 17,484 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 ステントグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設

	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
--	------------------------

南生協病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<p>指導医が 8 名在籍しています。（下記）</p> <p>内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <p>医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 10 回、感染対策 10 回）</p> <p>研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 6 回）</p> <p>地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 3 回）</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2015 年度実績 10 演題）</p>
<p>指導責任者</p>	<p>長江 浩幸 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>南生協病院は 2010 年に現在の南大高駅前に移転しました。移転では「地域の協同でつくる 健康なまちづくり支援病院」をかかげ地域住民の意見を集めました。その結果、「あいちまちなみ賞」「福祉建築賞」他を「地域住民の声を集めた病院」として評価されました。移転後は名古屋市緑区を中心とした名古屋南部地域の二次救急医療を担い、救急搬送、外来患者数が増加しています。また同じ法人内に回復期リハビリ病院、在宅診療所、4 つの内科系診療所および訪問看護ステーション、老人保健施設、高齢者住宅など医療・介護の多機能の複数の施設を有しており、病病連携、病診連携および施設との連携や地域住民との交流にも力を入れています。地域の高齢化を受けて、「病院で治す」から「地域で治し支える」医療・介護の地域住民を巻き込んだ実践は、2014 年度には厚生労働省の「地域包括ケア実践 100 のモデル」にも選ばれました。このような背景があり、当院では入院中のみだけでなく、地域の生活まで幅広い視野を養う研修が可能です。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 8 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 0 名、日本糖尿病学会専門医 0 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 0 名 日本血液学会血液専門医 0 名、日本神経学会神経内科専門医 0 名</p>

	日本アレルギー学会専門医（内科）0名、日本リウマチ学会専門医0名 日本感染症学会専門医0名、日本救急医学会救急科専門医0名
外来・入院患者数	外来患者 22,785名（1ヶ月平均）、入院患者 608名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設

名古屋掖済会病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●名古屋掖済会病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ●ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は 20 名在籍しています（下記）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016 年度予定）を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス（病診連携システム勉強会、中川区医師会循環器勉強会、中川区医師会胸部画像勉強会、中川区医師会腹部画像勉強会、神経内科研究会；2015 年度実績 30 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016 年度予定）が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ●専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体、2014 年度 21 体、2013 年度 25 体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015年度実績12回）しています。 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績10回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績5演題）をしています。
指導責任者	<p>山本雅史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>名古屋掖済会病院は名古屋市南西部にあり、東海地区ではじめて認可された救命救急センターを併設した高度急性期病院であります。年間約7800例の救急車搬入実績があり、救急疾患を含めた内科専門医研修に必要なほとんどの症例を、7つの診療科（循環器内科、呼吸器内科、神経内科、消化器内科、内分泌糖尿病内科、腎臓内科、血液内科）の豊富な経験を有する上級医の指導のもと経験することが可能です。新制度発足以前より後期研修医の希望に配慮したフレキシブルなローテーション研修を行ってきており内科総合的な研修体制を整えてきた実績があります。各診療科のカンファレンスは充実しています。19床の緩和ケア病床を有する癌拠点病院でもあり、常勤病理医も4名在籍しており、がんセンターボードなどの多職種の検討会も多く実施されておりチーム医療を推進しております。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医19名、日本内科学会総合内科専門医10名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医4名</p> <p>日本糖尿病学会専門医3名、日本内分泌学会専門医2名、</p> <p>日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名</p> <p>日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医5名</p> <p>日本アレルギー学会専門医（内科）2名 ほか</p>
外来・入院患者数	外来患者 27,904名（1ヶ月平均） 入院患者 14,553名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会教育関連施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本プライマリ・ケア学会認定研修施設</p> <p>日本内分泌学会認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本脳卒中学会専門医研修教育病院</p> <p>日本アフェシス学会認定施設</p> <p>など</p>

名古屋記念病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●名古屋記念病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医および臨床心理士、職員課担当者）があります。 ●職場環境調整委員会が名古屋記念病院内に整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は9名在籍しています（下記）。 ●内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ●基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2016年度予定）を設置します。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPCを定期的に開催（2014年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2016年度予定）が対応します。 ●特別連携施設（緑市民病院、愛知国際病院、新生会第一病院）の専門研修では、週1回の名古屋記念病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ●70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ●専門研修に必要な剖検（2014年度実績9体、2013年度10体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ●倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014年度実績12回）しています。 ●治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2014年度実績12回）しています。 ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績3演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>伊奈 研次</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>名古屋記念病院は、愛知県名古屋医療圏東名古屋地区の中心的な急性期病院であり、地域医療支援病院です。地域から信頼される病院づくりをめざして救急医療に力を入れるとともに、がん専門病院としてがん診療機能の整備を進めております。2つの大学病院および救急センターを備える第二種感染症指定医療機関である東部医療センターに連携施設として専門医研修の協力を仰ぐとともに、地域包括ケア病棟を有する緑市民病院、東海地区で最も伝統ある緩和ケア病棟を有する愛知国際病院、そして透析部門が強力な新生会第一病院と非常に個性的な施設に特別連携施設をお願いし、密接な協力を取り合っって内科専門研修プログラムを作成しました。必要に応じて可塑性のある、救急医療ならびにがん医療、そして在宅緩和ケ</p>

	ア、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院（初診および外来診療・入院～退院・通院）、あるいは在宅医療まで経時的に、診断・治療の流れを経験し、チーム医療の実践を通して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成をめざします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9名、日本内科学会総合内科専門医 13名 日本消化器病学会消化器専門医 6名、日本循環器学会循環器専門医 2名 日本糖尿病学会専門医 3名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1名 日本腎臓病学会専門医 4名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本血液学会血液専門医 3名 日本リウマチ学会専門医 3名 日本救急医学会救急科専門医 1名 ほか
外来・入院患者数	外来患者名 17,343名（1ヶ月平均） 入院患者 309名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本循環器学会研修施設 日本血液学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

協立総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・提携保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 13 名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）

	<p>研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績5回）</p> <p>地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績9回）</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績4演題）</p>
指導責任者	田中久
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医13名、日本内科学会総合内科専門医6名 日本消化器病学会消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医3名 日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医1名 日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名 日本神経学会神経内科専門医1名、日本リウマチ学会専門医2名 日本救急医学会救急科専門医1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者10106名（1ヶ月平均）、入院患者6812名（1ヶ月平均延数）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診察連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p>

総合大雄会病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ●研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ●社会医療法人大雄会常勤医師として労務環境が保障されています。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ●ハラスメント委員会が整備されています。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ●敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医は12名在籍しています（下記）。 ●内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講

	<p>を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2016年度実績 医療倫理1回、医療安全1回、感染対策1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2017年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●CPCを定期的に開催(2016年度実績4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ●地域参加型のカンファレンス(2016年度実績11回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも10分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ●70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できます(上記)。
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2016年度実績4演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>村瀬 寛</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会医療法人大雄会総合大雄会病院は地域の中核病院であり、救命救急センターおよび地域医療支援病院の資格を有するため、一次医療から三次医療まで幅広い診療を経験することができます。近接する同一法人施設である大雄会第一病院および大雄会クリニックと合わせた3施設で一体となった研修を行います。 ・消化器、循環器、呼吸器、内分泌など各分野の検査に積極的に参加することができ、技術・技能を早期に習得することができます。 ・JMECCのディレクターが在籍しており、JMECCの講習会を開催できます。 ・主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 ・一般外来や救急外来で経験した症例をローテーション中の診療科と関係なく担当医となり、横断的に専門医による指導を受けることができます。
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医12名 日本内科学会総合内科専門医9名、日本消化器病学会消化器専門医数2名 日本循環器学会循環器専門医数4名、日本内分泌学会専門医数1名 日本糖尿病学会専門医数3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医数2名 日本血液学会血液専門医数1名、日本神経学会神経内科専門医数1名 日本救急医学会救急科専門医数1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者(延数)5,496名(1ヶ月平均)、 入院患者(延数)3,252名(1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 など</p>

碧南市民病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・碧南市民病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処します。 ・ハラスメントに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用することが可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は6名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績医療倫理1回、医療安全・感染対策各3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2015年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（ケースカンファレンス）を定期的に開催（2015年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野(少なくとも7分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2014年度実績10体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、講演会も定期的に開催（2015年度実績2回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績3演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>杉浦誠治 【内科専門医へのメッセージ】 碧南市民病院は愛知県西三河南部西医療圏における二次救急医療機関です。また、地域包括ケア病棟を有しており、急性期医療のみならず、超高齢社会にむけて地域に根ざした病診・病病連携にも力を入れています。 各専門領域のみではなく、主担当医として、社会的背景、療養環境調整も包括する全人的医療を實踐できる内科専門医となれるよう教育に力を入れています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医5名、日本内科学会総合内科専門医5名、日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医2名、日本糖尿病学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本アレルギー学会専門医(内科)2名、日本リウマチ学会専門医1名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数 経験できる疾患群</p>	<p>外来患者 16,180名(1ヶ月平均) 入院患者 792名(1ヶ月平均) きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる 技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域 医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 主に、プライマリケアに重点をおいた研修を行います。</p>
<p>学会認定施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会認定医制度教育病院

(内科系)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本呼吸器学会認定施設 ・日本アレルギー学会認定教育施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本神経学会専門医制度認定教育施設 ・日本脳卒中学会認定研修教育病院 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
-------	--

常滑市民病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が常滑市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理 0回、医療安全 12回、感染対策 12回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 1回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 0回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績0演題）
指導責任者	富田 亮 【内科専攻医へのメッセージ】 常滑市民病院は愛知県知多半島中部の中心的な急性期病院であり、西三河医療圏にある連携施設・特別連携施設として、内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として入院から退院まで経時的に、診断、治療の流れを通じて、社会的背景、療養環境調節をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0名、日本内科学会総合内科専門医 0名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 0名 日本内分泌学会専門医 0名、日本糖尿病学会専門医 0名 日本腎臓病学会専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名 日本血液学会血液専門医 0名、日本神経学会神経内科専門医 0名 日本アレルギー学会専門医（内科）0名、日本リウマチ学会専門医 0名 日本感染症学会専門医 0名、日本救急医学会救急科専門医 0名
外来・入院患者数	外来患者 12,368名（1ヶ月平均）、入院患者 6,845名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70

	疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本消化器病学会認定施設など 日本がん治療認定医機構認定研修施設

日進おりど病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策12回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績0回） ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績1回）
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。（2015年度実績？演題）
指導責任者	遠藤茂夫
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 1名 日本内分泌学会専門医 0名、日本糖尿病学会専門医 0名 日本腎臓病学会専門医 0名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 0名 日本血液学会血液専門医 0名、日本神経学会神経内科専門医 0名 日本アレルギー学会専門医（内科）0名 日本リウマチ学会専門医 1名、日本感染症学会専門医 0名 日本救急医学会救急科専門医 0名
外来・入院患者数	外来患者 9192名（1ヶ月平均）、入院患者 3518名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定指導施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>日本透析医学会認定医制度認定施設</p> <p>日本血液学会認定研修施設</p> <p>日本大腸肛門病学会専門医修練施設</p> <p>日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設</p> <p>日本神経学会専門医制度認定教育施設</p> <p>日本脳卒中学会認定研修教育病院</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本神経学会専門医研修施設</p> <p>日本内科学会認定専門医研修施設</p> <p>日本老年医学会教育研修施設</p> <p>日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設</p> <p>日本東洋医学会研修施設</p> <p>I C D /両室ペーシング植え込み認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本肥満学会認定肥満症専門病院</p> <p>日本感染症学会認定研修施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会高血圧専門医認定施設</p> <p>ステントグラフト実施施設</p> <p>日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設</p> <p>日本認知症学会教育施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>など</p>

半田市立半田病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・半田市常勤医師として労務環境が保障されます。 ・メンタルヘルスに適切に対処します。 ・ハラスメントに適切に対処します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 12 回、感染対策 12 回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専

	<p>攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015年度実績3回)
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。(2016年度実績3演題)</p>
<p>指導責任者</p>	<p>榊原 雅樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>半田市立半田病院を連携施設として異動し、研修される場合は、正規職員として就労することとなります。したがって、給与・福利厚生は充実し、安心して研修することができます。学術的なサポートとしては、年間3日の学会参加の費用を負担します。また、学会発表される場合は、日数の制限なく費用支援がなされますので、十分なサポート体制が約束されます。</p> <p>診療面では、知多半島医療圏全域(背景人口70万人)を診療域としているため、研修においては多彩な症例を十分に経験できます。病院医師だけでなく、コメディカルスタッフの教育も十分に行き届いているため、質の高いチーム医療を実践できます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医8名、日本内科学会総合専門医4名、日本消化器病学会専門医4名、日本循環器学会専門医3名、日本糖尿病学会専門医2名、日本内分泌学会専門医2名、日本腎臓病学会専門医1名、日本呼吸器学会専門医2名、日本神経学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医2名、日本救急医学会専門医1名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 20167名(1ヵ月平均) 入院患者 11757名(1ヵ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 植え込み型除細動器/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 など</p>

名古屋第二赤十字病院

<p>認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。
---------------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が 27 名在籍しています。（下記） 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 医療倫理 4 回、医療安全 67 回、感染対策 5 回） 研修施設群共同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 13 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015 年度実績 18 回）
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。（2015 年度実績 9 演題）
指導責任者	副院長 野口 善令 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋第二赤十字病院は、名古屋市東部地域の中心的急性期総合病院です。救急・急性期医療と先進医療がバランスよく組み合わせられているため、common disease の急性期の症例に加え、多彩な疾患に対する先進的な治療が経験できます。 また、診断の難しいチャレンジングな症例も数多く集まり診断推論の能力が身につきます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本救急医学会救急科専門医 5 名
外来・入院患者数	外来患者 33,930 名（1 ヶ月平均実数） 入院患者 1,982 名（1 ヶ月平均実数） 外来患者 38,035 名（1 ヶ月平均延数） 入院患者 22,587 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設

	日本血液学会認定研修施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
--	---

西知多総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度大学型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師もしくは医員として労務環境が保障されます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、仮眠室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が7名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理5回、医療安全2回、感染対策2回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績1回）
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、感染、神経、アレルギー、救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間での学会発表をしています。
指導責任者	安藤貴文 【内科専攻医へのメッセージ】 当施設は平成27年5月に開院した知多半島北西部地域の中核病院で、この地域の救急・急性期医療を担って地域連携を推進しております。機器は最新のものも多く入っており、検査や治療も迅速に対応可能でICU管理も充実しております。研修は初期研修を含め意向合わせた柔軟なもので、診療科間の垣根も低く症例数も豊富なため、個人の希望に応じた充実した研修が可能です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医7名、日本内科学会総合専門医12名、日本消化器病学会専門医5名、日本循環器学会専門医3名、日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医2名、日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会専門医2名、日本血液学会専門医0名、日本神経学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医1名、日本リウマチ学会専門医0名、日本救急医学会

	専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 368 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 150 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓病学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

総合犬山中央病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (健康管理室) があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 3 名在籍しています。(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) ・研修施設群合同カンファレンス (2017年度予定) を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・C P C を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015年度実績 1 回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015年度実績 18 回)
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、呼吸器、および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。(2015年度実績1演題)
指導責任者	竹腰 篤 【内科専攻医へのメッセージ】 長年、臨床教育現場での指導に当たって参りました当院では、受験申請に必要な症例を満たすよう、副院長を専任の教育担当に据え、病院を挙げての万全の体制で研修をサポート致します。 当院の研修は常に少数精鋭で行うことに重きを置いています。それは研

	修されている先生方に様々な手技や症例をご経験頂き、日々ご自身のスキルが上がっていくことを実感して頂くためです。いつでも指導医の助言を受けられる、安心して診療に携わる環境をご準備しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1名、日本内科学会総合内科専門医 1名 日本消化器病学会消化器専門医 2名、日本循環器学会循環器専門医 2名 日本内分泌学会専門医 0名、日本糖尿病学会専門医 1名 日本腎臓病学会専門医 0名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名 日本血液学会血液専門医 0名、日本神経学会神経内科専門医 0名 日本アレルギー学会専門医(内科) 1名、日本リウマチ学会専門医 0名 日本感染症学会専門医 0名、日本救急医学会救急科専門医 2名
外来・入院患者数	外来患者 12,176名(1ヶ月平均)、入院患者 6,138名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設

豊田地域医療センター

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ●藤田医科大学病院初期研修の関連施設で、地域医療を担当している。 ●研修に必要なインターネット環境がある。 ●専攻医・指導医に対する労務環境が保障されている。 ●メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ●女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ●近隣に保育施設が多数ある。
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ●指導医が4名在籍している。 ●専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ●全職員を対象とした医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2016年度実績 医療倫理2回、医療安全12回、感染対策12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を作っている。 ●研修施設群合同カンファレンスに関しては定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を作っている。 ●基幹施設で行うCPCに専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ●地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域4分野(総合内科、消化器、循環器、呼吸器)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に定期的に学会発表をしています。
指導責任者	大杉泰弘 【内科専攻医へのメッセージ】

	<p>豊田地域医療センターは地域医療センターとのその名の通り、地域の一次医療を担っている病院である。豊田地域医療センターのある豊田市はトヨタ自動車の企業城下町であり、今後典型的な 2025 年問題が生じる中核市である。</p> <p>豊田地域医療センターは 150 床の小病院で、内科医として外来・在宅・病棟・地域包括ケアを学ぶことができる。</p> <p>当病院のローテーションでは、内科医として、地域包括ケアを担う医師の育成にある。プログラム修了後には、大病院のみならず、中小病院のスペシャリストとして働くことのできる能力、行政・多職種と連携し、医療・介護・福祉に関わることのできる能力が開発されていることが目標となる。</p> <p>個別目標（中核的能力）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療所・小病院において、年齢、性別、疾患を問わず、頻度の高い症候・病態への診療技能を提供することができる。 2. 大病院における救急外来、総合内科病院においても、内科医としての技能を有効に生かした診療ができる。 3. 対人関係スキル及び効果的なコミュニケーション技能を身につけて、次の現場において実践できる。 <p>[1]患者・家族、[2]他の専門医、[3]多職種、[4]行政機関・職能団体</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 病院施設内での活動にとどまらず、在宅（緩和も含む）、介護、予防・福祉などの健康にかかわる問題に貢献できる。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 1 名
外来・入院患者数	総外来（新規）2145 名（1 か月平均） 入院患者（新入院）122 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 4 領域、疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。
学会認定施設 （内科系）	日本老年病専門医研修認定施設

みよし市民病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・シニアレジデントもしくは指導診療医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 0 名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回） ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2015年度実績 6回）

	・地域参加型のカンファレンスを定期的を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2015年度実績0回)
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしています。(2015年度実績0演題)
指導責任者	加藤 千博 【内科専攻医へのメッセージ】 地域密着型病院として内科全般の診療を担っていますが、特に循環器、消化器領域は専門医、指導医が充足しており、基幹病院に準ずる症例を経験できます。 また、在宅、訪問看護に力を入れており、地域医療の経験に最適と思われます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 0名、日本内科学会総合内科専門医 4名 日本消化器病学会消化器専門医 3名、日本循環器学会循環器専門医 2名 日本内分泌学会専門医 1名、日本糖尿病学会専門医 0名 日本腎臓病学会専門医 0名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 0名 日本血液学会血液専門医 0名、日本神経学会神経内科専門医 0名 日本アレルギー学会専門医(内科) 0名、日本リウマチ学会専門医 0名 日本感染症学会専門医 0名、日本救急医学会救急科専門医 0名
外来・入院患者数	外来患者 7,693名(1ヶ月平均)、入院患者 3,053名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある7領域、35疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診察連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設

藤田医科大学岡崎医療センター(2020年開院予定のため未定)